

掃除の神様

2019年W杯サッカー日本代表は、決勝トーナメント1回戦でベルギーに惜敗した後、自分達のロッカールームを試合前のようにきれいに清掃し、「スバシーバ(ありがとう)」とロシア語でメモを残しました。



2019年W杯ラグビーにおいて、試合後のスタンドでゴミを拾う日本人ファンの姿があり、それを見た海外の観客も自国の試合後にスタンドのゴミを拾う姿が多く見られるようになりました。

私たち日本人は幼少期から小中高校で、疑いもなく掃除をし、ゴミの分別を行ってきました。この習慣は海外の方から見ると不思議な行為に映るようです。しかし、自分達の使った場所をキレイにする行為は、「次に使う人のために」にしているものであり、「おもいやり」の精神です。そして使わせてもらったという感謝の形です。分別は、無駄をなくす行為であり「もったいない」の精神です。世界共通語になった「もったいない」の精神でおもいやりを持って掃除をしている姿が海外の方を感動させているのです。

みなさんには、この素晴らしい掃除という習慣を、今一度「おもいやり」の精神を思い出して実行してほしいと思います。植村花菜さんの歌詞のように、掃除の神様は、みなさんの心を`べっぴんさん`にしてくれることでしょう。

水脈

No. 129

- 発行
石川県立金沢二水高等学校
- 発行日
令和2年3月3日
- 編集
生徒保健委員会
生徒環境委員会

意識を高めて行動しよう

本校は平成21年度に「いしかわ学校版環境ISO」の認定を受け、①エネルギー消費量の削減、②ごみの分別と排出量の削減、③水・紙の使用量の削減と紙のリサイクル、④環境保全意識の涵養と地域の環境保全活動への参加などを目標に、生徒・教職員が協力してさまざまな活動に取り組んできました。

ゴミを減らし、再生できるものを増やしていかなければ、あふれる一方となる現実に、私たちの社会は直面しています。本校でも削減できる事がまだ多くあるはずですが、二水生一人ひとりが自分の行動を見直し、ゴミの分別・削減、節水、リサイクルに取り組んでほしいものです。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
電気使用量	278,820kwh	267,480kwh	261,312kwh
水使用量	6,208㎡	6,741㎡	7,046㎡
可燃ごみ排出量	7,000kg	7,605kg	7,140kg

環境委員長

203H 澤田 元

環境委員会では、二水高校の良い環境づくりを目的に、ゴミの分別や教室の日常点検などの活動に取り組んできました。多くの人がゴミの分別が出来ている中、一部の人はリサイクルできる紙などを捨てる人や、分別できていない人もいました。一人ひとりがゴミ分別の意識を持つことが良い環境づくりにつながります。意識して行動していきましょう。一年間環境委員会の活動へのご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。来年度も皆さんのご協力をお願いします。

振り返って

環境副委員長

208H 小田 修士

今年一年、環境委員として活動してきた中で最も印象に残っているのは、二水アクトでした。私たちが暮らしている地域で、これだけ多くのゴミが捨てられていることを知り、とても驚きました。二水アクトでは、私たちがゴミの問題や地域の環境、また環境問題について知ることが出来る良い機会だと思っています。来年度も皆さん一人ひとりに環境について考えていただき、様々な活動に意欲を持って取り組んでもらいたいと思います。

1年間の活動を

生徒保健推進講習会

8月6日いしかわ総合スポーツセンターで開催された石川県高等学校生徒保健推進講習会にて、保健委員会の研究係が研究結果を発表しました。その内容をご紹介します。



“梅干しの力”の研究

研究を始めるに当たって日常の中の気になることを考えてみました。そこで注目したのが **梅干し** でした。

【動機】

- ・暑い時期、熱中症予防には塩分補給が大切・・・塩を使った身近なものとして、梅干しに興味をもった！
- ・お弁当に毎日入っている梅干し・・・どんな効果があるんだろう？知りたい！
- ・梅干しが好き・・・だけど、作り方を知らない。作って味わってみたい！



【梅干し作りの過程】6/27(木)～7/26(金)



塩漬け作業



もみ紫蘇作り
紫蘇漬け作業

天日干し（3日間）



完成



試食

【まとめ】

梅干し作りを通して学んだこと

1. 感謝の気持ち

一から梅干しを作ってみて、思っていたよりもすごく大変だということが分かった。いつもおばあちゃんからもらっていた梅干しも手間暇かかっていたんだなと実感し、食べ物を作ってくれている人への感謝の気持ちを再確認することができた。

2. 作る楽しさ

休み時間や夏休みも集まって梅干し作りをして、大変と感じる一方で、楽しみも感じていた。作っていく過程で変化する梅干しの姿が面白く、最後にはおいしい梅干しができたので、がんばってよかったなと思った。美味しいと言ってもらえると、とても嬉しかったし、達成感を感じた。

3. 作る難しさ

途中何度かハプニングもおこり、作ってみて反省点もあった。腐る危険性を恐れて、塩分濃度を高めに設定するとしょっぱすぎると言われた。次は塩分濃度を少し下げてチャレンジしたいと思った。

4. 自分で作る安全性

自分たちの梅干しと市販の梅干しは色や味に違いがあると思った。市販の梅干しには早く、低コストで作るための着色料や酸味料、防腐剤などの添加物が含まれているものもあるのではないかと考えた。研究では材料を選んで買うことから梅干し作りを始めたので、自分たちで作った梅干しの方が市販のものよりも安全性が高いと考えた。

5. 食べることは生きることにつながっているということ

自分で作った梅干しを食べて、塩分が補給されるのを感じたし、何より、口にした食べ物が自分の体をつくっていると考え、何をどう食べるかもっと考えようと思える機会となった。

3月24日のオレンジコンサートで発表予定です。乞うご期待！

生徒保健推進講習会に参加して

保健委員研究係 末岩 悠

今回の研究を通して、今までよりも詳しく梅干しを知り、新たに疑問を発見することもありました。そして、自分たちで作った梅干しを食べたり、食べてもらったりして改めて食べることにありがたみを感じることが出来ました。最初は研究が上手くいくか分からず、初対面の人はかなりで不安だったけれど、研究を進めていくうちにどんどん仲良くなって、研究も私にとって非常に興味深いものとなりました。

講習会では、アイスブレイクの時間を通して、学年や学校の壁を越えて仲良くなることが出来て嬉しかったです。また発表時の良かった点やアドバイスをお互いにチェックすることによって、自信を持てたり自分たちだけじゃ分からない反省点を見つけたりすることが出来ました。

今回、講習会に参加して、知らなかったことやこれからの自分の身体に必要な情報を知ることができ、大変有意義な時間を過ごせました。そして健康でいることの大切さを再確認しました。今、こうやって元気でいることに感謝して一日一日を過ごしていけたらいいなと思います。

「発表を聞いた他校生の感想」

「実体験を交えて話を進めていて

わかりやすかった」

「長い時間かけて研究・制作して

いてすごいと思った」

「今回発表にあったことを祖母に
伝えてみようと思った」